

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	安城物流センター(株) 和泉営業所新	階数	地上2F
建設地	安城市和泉町大海古5-13	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	15 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年7月 予定	評価の実施日	2014年7月2日
敷地面積	2,268.10 m ²	作成者	玉井 秀一
建築面積	1,336.43 m ²	確認日	2014年7月2日
延床面積	2,456.12 m ²	確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
 - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
 - Q-3 1 生物環境の保全と創出
 - ④地域材の活用
 - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
3 タニコヒ等								
4 レンジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								3.6
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
			② カルバリウム鋼板40年 床:カラクリト床仕上20年、壁:PB30年(天井PB同等)、天:表シ 給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	3.2	0.52			3.2
				3.0	0.48			
				3.0	0.80			
				3.0	0.20			
				3.9	0.33			
				3.0	0.23			
				5.0	0.23			
				5.0	0.09			
				3.0	0.08			
				5.0	0.15			
				3.0	0.23			

2.4 信頼性				2.6	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				4.1	0.48			4.1
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			
1 階高のゆとり			各階階高5.75m	5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.14で、空間のプランニングの自由度が高い	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			倉庫床7,500N/m ²	5.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.4
LR1 エネルギー				-	0.40			3.4
1 建物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			高効率なHf照明を中心に採用	3.6	0.43			3.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				3.6				
集合住宅の評価				3.9				
4 効率的運用				3.5	0.29			3.5
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			運用・維持・保全の基本方針を定めている	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.6
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型便器や水栓を積極的に採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63			3.6
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	長尺塩ビシート(内装床)、タイルカーペット(内装床)	4.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		S造乾式工法で分別が容易かつ設備との錯綜回避、OA707採用	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			グラスウール、ホリスチン(現状ノックアップのみ流通)を採用	5.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		①		3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮				3.3	0.33			3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器がない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			光害チェックリストを過半満たす、広告物照明がない	5.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

安城物流センター(株) 和泉営業所新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.5_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 特になし
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 施設のサービス性能向上のため、将来の更新性(仕上材・設備配管などの建材資材の耐久性、設備や空間のプランニングの自由度)に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周囲の建築物に合わせ、白を基本とした外壁色とした。また、前面道路が国道かつバイパス道路であるため、白を基本とした外壁色によりドライバーから違和感を感じない建物とするよう配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 照明器具に関して高効率なHf照明を採用しエネルギー量の低減に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省資源への貢献として、水資源(節水型衛生設備)、建材再利用性(解体時の資材分別容易性)、汚染物質回避(ノンフロン断熱材)に配慮している。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地外環境への負荷軽減のため、高効率機器の採用による運用LCCO2排出量削減、光害の抑制に配慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし